

# 表紙で振り返る 広報えちぜん!

平成17年の合併により現在の越前町が誕生し、同時に広報えちぜんも創刊号が発刊されました。町民に寄り添うことをモットーに、さまざまな情報を発信してきましたが、その中でも、時代や出来事をうつした表紙の写真は、広報担当者が想いを込めて自ら撮影しています。今回は、歴代の担当者が思い出に残る表紙を選んで、時代を振り返ります。

- 2005・新越前町が誕生  
・生涯学習センターが完成
- 2006・コミュニティバス運行開始  
・梅浦バイパスが一部開通
- 2007・青野鎌坂バイパスが全線開通  
・男女共同参画宣言都市記念式典を開催
- 2008・友好交流都市モンテパロ市長が来町
- 2009・プラントピアを現上皇皇后両陛下がご視察  
・鯖江・丹生消防組合消防署丹生分署が完成
- 2010・越前バイパスが開通
- 2011・宮崎・越前コミュニティセンターが完成  
・人工芝ホッケー場が完成
- 2012・全域にデジタル防災無線を完備  
・織田コミュニティセンターが完成
- 2013・町内小中高校のホッケーチームが同時に全国制覇
- 2014・朝日コミュニティセンターが完成  
・越前町観光連盟を設立  
・道の駅越前が完成
- 2015・越前町合併10周年記念式典を開催
- 2016・泰澄・白山開山1300年
- 2017・越前焼を含む日本六古窯が日本遺産に認定
- 2018・人工芝ホッケー場で国体ホッケー競技開催
- 2019・学校給食センターが完成
- 2020・役場新庁舎が完成



## 『第5回 越前さかなまつり ～漁船乗船体験～』

平成27年10月号 担当：Tさん

私は平成26年度と27年度の2年間、広報担当をさせていただきました。27年度から表紙の写真カラーにしてみました。この年から表紙の写真撮影に気が入ったのを覚えています。選んだ写真は越前さかなまつりでの1コマです。私も初めて漁船に乗せてもらい、船酔いと闘いながら、波しぶきでカメラが壊れないよう注意し、参加者の様子を撮影しました。

表紙の写真は基本的に組み写真ではなく1枚写真にしたかったため、限られた横幅にどれだけの情報を入れられるかを考えながら、毎回題材を決めていました。

## 『深紅の王『極』現る ～In The Wake Of Poseidon～』

平成28年12月号 担当：Sさん

200号までの中で、タイトルに固有名詞以外でアルファベット表記を使用したのは2回あり、そのうちの1回がこの143号です。

広報の表紙は、たった1ページですが、写真とタイトルで、どれだけのことが表現できるかという挑戦のページだと思っています。

この年は、タイトルに「色」に関する言葉を入れるという「しぼり」を設け、かつ、1ページにどれだけの「ネタ」を詰め込めるかに熱量を注いでいました。前月号との写真の対比、タイトルの表記など改めて見ていただくと面白いかと思います。



## 『胸を張って笑顔で 丹生高校野球部 初の準優勝』

令和元年9月号 担当：HALさん

この表紙は、とても思い出に残っている1ページです。私の場合は取材に行く時、つついあれもこれもと撮りすぎて、表紙の写真選びがいつも大変でした(笑)。この写真も閉会式後の記念撮影を終え、グラウンドを後にする野球部のたまたま撮れたオフショット。全力を出し切り戦った野球部みなさんは、みんなすっきりとしたいい表情をしていました。タイトルの「胸を張って笑顔で」という部分は、主将を務めた玉村昇悟さん(広島東洋カープ)へのインタビューから付けました。



## 『フレンドリー号、発進!』

平成18年7月号 担当：MYさん

越前町コミュニティバス「フレンドリー号」が役場前に全台集合し出発式が行われました。町内の融和を図るための大きな事業がスタートすることに感動した記憶があります。

このバスは、越前町をイメージした装飾が施され、今でも運行を続けています。また、背景には旧役場本庁舎も写っており、新越前町の誕生から続いているもの、変わりゆくものを感じる一枚ではないかと思っています。



## 『私たち、僕たちの ひな人形!!』

平成22年3月号 担当：GKさん

当時、5歳～6歳だった子どもたちの様々な表情が、かわいらしく・いとおしく・頼もしく感じられ、越前町の未来を大きく躍動させる原石を見つけた気持ちでした。

あの子供たちはもう高校生ぐらいでしょうか。家族や地域に見守られながら輝き出した彼らの活躍は「必ず次代につながる」それが越前町を前進させる原動力になるのだと信じながら奔走していた自分を思い出します。昨今のコロナ禍での多方面での活動を自粛せざるを得ない状況の中ではありますが、これからも未来を次代につなぐみなさんを応援したいです。



## 『恭賀新年 卯』

平成23年1月号 担当：KMさん

当時、1月号以外は2色刷りの表紙だったため、1月号では、カラー刷りで季節を感じることにできる表紙にしたいと考えていました。1月号は、12月中旬に編集を行います。例年この時期には降雪がなく、イメージした『雪』が取り入れられるか不安でした。ですが、ちょうど帰り道の車でフロントガラスを霰が打ち付けました。そこで、急いで剣神社に向かい、わずかな霰をかき集め、南天で装飾して、干支の『卯』と神社で、年越しの初詣をイメージした写真を撮影しました。

